

県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる

<ポイント>

- 1.生産……………9月の鉱工業生産指数（2015年＝100、季節調整値）は96.1、前月比1.1%減と3か月連続で低下した。
- 2.民間設備投資…9月の建築物着工床面積（民間非居住用）は217千㎡、前年同月比108.2%増と2か月連続で前年水準を上回った。
- 3.住宅投資……………9月の新設住宅着工戸数は1,761戸、前年同月比26.6%増と7か月連続で前年水準を上回った。
- 4.公共投資……………10月の公共工事請負金額は380億20百万円、前年同月比9.2%減と3か月連続で前年水準を下回った。
- 5.個人消費……………9月の百貨店・スーパー販売額（全店）は前年同月比2.6%増と2か月振りに前年水準を上回った。9月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は5,798台、前年同月比36.4%減と4か月連続で前年水準を下回った。
- 6.雇用情勢……………9月の有効求人倍率（季節調整値）は1.36倍、前月比0.04pt減と2か月連続で低下した。

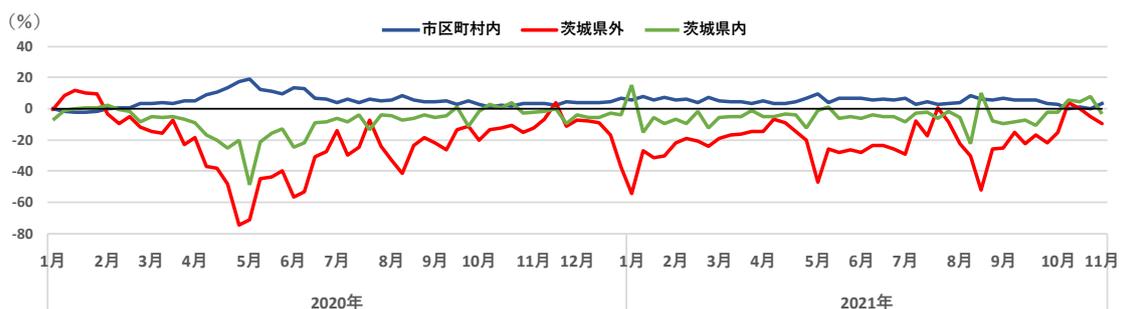
<概況>

県内経済は、住宅投資、雇用情勢に持ち直しの動きがみられる。一方、生産活動は新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）による落ち込みからの持ち直しの動きが一服している。設備投資は各種ビジネスサーバイからは弱い動きが続いており、公共投資も弱含みにある。個人消費は、小売業や宿泊業などから客足の回復の声が聞かれる一方、供給制約の影響で乗用車販売が落ち込んでおり、総じてみれば弱含みにある。

新型コロナに関しては、全国・県内ともに感染者数の減少が続いている。9月30日まで発令されていた緊急事態宣言等の解除を受けて、茨城県外からの人出は11月第1週時点で2019年同週比9.4%減の水準まで回復している。

先行きの県内経済は、行動制限の緩和が持続されるとともに、政府の経済対策が寄与し、企業や消費者のマインドが改善することで、経済活動全体が持ち直しに向かうことが期待される。もっとも、半導体等の世界的な供給制約や、原油をはじめとした資源価格の上昇の影響が、生産活動に加え個人消費に波及する懸念も強まっている。

茨城県の滞在人口の動向（推定居住地ごとの2019年同週比）



内閣府地方創生推進室ビッグデータチーム「V-RESAS」、株式会社Agoop提供データをもとに当社作成

生産は持ち直しの動きが一服している

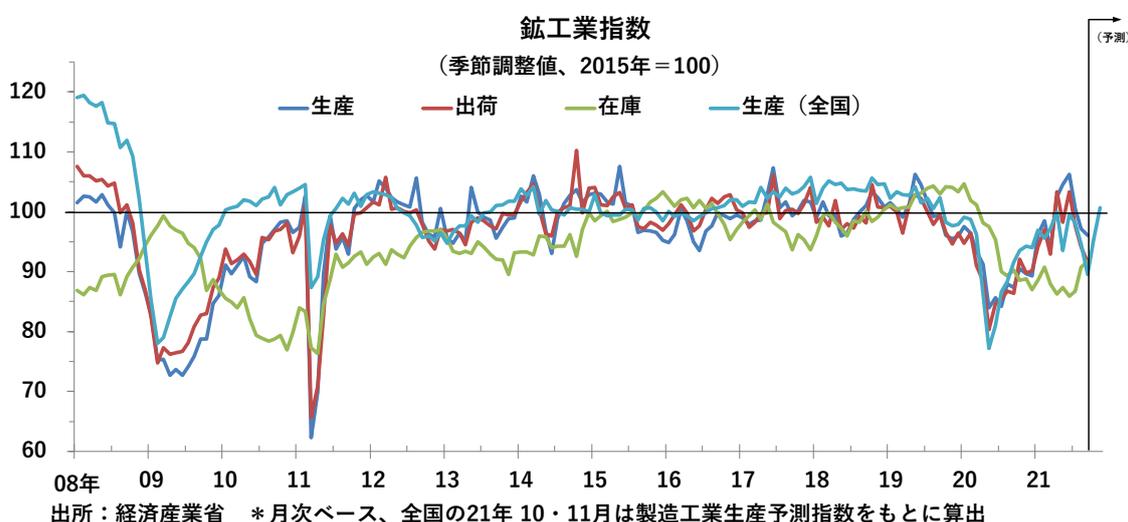
9月の鉱工業生産指数（2015年＝100、季節調整値（※1））は96.1、前月比1.1%減と3か月連続で低下した。

業種別にみると、生産用機械工業（前月比10.4%増）や輸送用機械工業（同4.8%増）、鉄鋼業（同7.1%増）、食料品・たばこ工業（同1.1%増）等が上昇したものの、電気機械工業（同13.1%減）や化学工業（同4.7%減）、汎用・業務用機械工業（同3.8%減）等は低下した。9月の生産指数は、県内生産ウエイトの高い業種で上昇と低下が入り混じる形となったものの、総体では小幅ながら低下となった。

当社が実施した「茨城県内主要企業の経営動向調査」（以下、企業調査）によると、21年7-9月の製造業の生産判断DI（※2）は14.2%と前期比4.2pt上昇した。企業からも内外需要の回復を指摘する声が聞かれたものの、生産判断DIの先行き（10-12月）は今期比9.7pt低下の見通しであることを勧告すると、足もとでは新型コロナによる落ち込みからの持ち直しの動きが一服している。以上を踏まえ、県内の生産活動は「持ち直しの動きが一服している」と、判断を引き下げた。先行きの生産活動は、堅調な海外需要を背景に輸出関連企業がけん引することで、再び持ち直しに向かうとみられる。もっとも、資源・資材価格上昇の動向や、世界的な半導体不足が生産活動に与える影響については引き続き注視する必要がある。

外需に係る貿易面についてみると、9月の茨城県内税関3支署の輸出額は1,154億円、前年同月比2.4%減と7か月振りに前年水準を下回った。支署別にみると、鉄鋼や石油製品、有機化合物等の増加が大きく寄与した鹿島が同170.3%増、荷役機械、精油・香料・化粧品類等の増加が寄与したつくばが同59.4%増であったものの、自動車が増減した日立が同44.1%減であったことが全体の減少に影響した。なお、速報値によると10月の輸出額（3支署合計）は1,304億円、同15.5%増と前年水準を上回る見通しとなっている。

※1：原数値から季節的要因を調整した数値 ※2：前年比で生産が「増加した」と「減少した」との回答割合の差



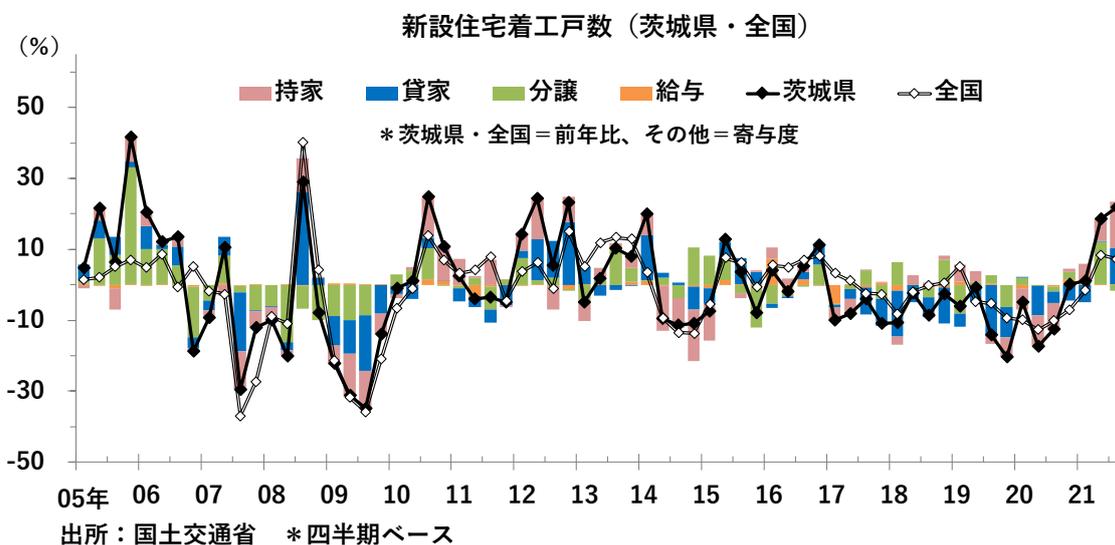
設備投資は弱い動き、住宅投資は持ち直している、公共投資は弱含みにある

9月の建築物着工床面積(民間非居住用)は、倉庫の着工増加などが寄与し、217千㎡、前年同月比108.2%増と2か月連続で前年水準を上回った。圏央道沿線エリアで相次ぐ大型物流施設の着工を背景に、7-9月期の建築物着工床面積は449千㎡、同60.6%増と2期連続で前年水準を上回った。もっとも、当社の企業調査(7-9月期)や、日銀短観調査結果(茨城県・9月)からは、県内企業全体としては慎重な投資スタンスが続いているとみられることから、設備投資は「弱い動きとなっている」との判断を据え置いた。

9月の新設住宅着工戸数は1,761戸、前年同月比26.6%増と7か月連続で前年水準を上回った。内訳をみると、主力の持家は966戸、同35.9%増と11か月連続で、貸家は564戸、同24.0%増と4か月連続で、分譲住宅は226戸、同2.7%増と2か月振りに増加した。

着工総数の改善傾向が続いていることを踏まえ、住宅投資は「持ち直している」との判断を据え置いた。もっとも、先行きについては、木材の供給不足および価格上昇の影響が需要にもたらす影響について引き続き注視する必要がある。県内の住宅メーカーからは「木材以外の建設資材の調達でも遅れが目立ってきた。今後、住宅価格は5%程度値上げの見通し」との声が聞かれた。なお、住宅着工統計より当社が試算した、21年9月の茨城県の新築木造一戸建の工事予定額指数(2015年=100)は103.8となっており、同年同月の住宅木材・木製品の企業物価指数(156.6)との乖離が大きいことから、今後県内でも住宅価格の上昇が顕在化する可能性がある。

10月の東日本建設業保証の公共工事請負金額は380億20百万円、前年同月比9.2%減と3か月連続で前年水準を下回った。21年度累計(4-10月)でみると、前年同期比10.2%減で推移している(うち県は同7.4%減、市町村は同7.9%減)。公共投資は、前年比でみた公共工事請負金額の改善に足踏みがみられることから「弱含みにある」との判断を据え置いた。もっとも、先行きは、国や県の公共工事予算執行に伴い、月々の振れを伴いつつも底堅く推移するとみられる。



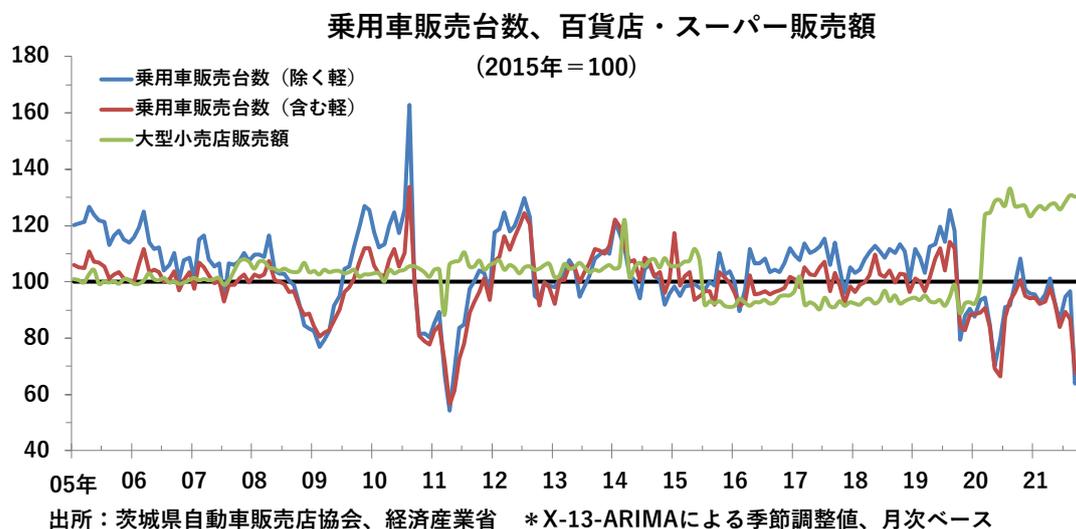
個人消費は弱含みにある

10月の乗用車販売台数（乗用車新規登録台数＋軽乗用販売台数）は5,798台、前年同月比36.4%減と、4か月連続で前年水準を下回った。県内の業界団体からは「依然として半導体不足による減産の影響が続いている。（車種によっては）納車までの期間は1年以上かかるものもある。ただし、受注自体は問題ない水準」との声が聞かれた。

9月の百貨店・スーパー販売額は、全店ベースで前年同月比2.6%増と2か月振りに、既存店ベースで同1.5%増と5か月振りに前年水準を上回った。9月の専門量販店販売額は、ドラッグストアが同4.1%増と5か月連続で、ホームセンターは同0.5%増と5か月振りに、コンビニエンスストアは同0.3%増と2か月振りに前年水準を上回った。一方、家電量販店は同7.9%減と2か月連続で前年水準を下回った。このように9月の小売サイドの販売動向は、コロナ特需の影響が弱まる中、業態によってまだら模様の結果となった。

消費マインド関連指標である「景気ウォッチャー調査（21年10月調査）－北関東－」の家計動向関連DI（現状判断DI）は53.1、前月比14.4pt増と2か月連続で改善した。企業ヒアリング（11月）でも、新型コロナ感染拡大が落ち着いた状態の中、景況感の改善を指摘する声が目立った。小売業者からは「緊急事態宣言の解除以降、外出制限が緩和されたことにより、婦人服等の消費が戻りつつある」、ホテル業者からも「11月（の集客）はコロナ感染拡大前（19年11月）と比べて9割程度まで回復。12月の予約も例年の9割程度の見通し。県外客も戻りつつある」といった声が聞かれた。

もっとも、9月の家計消費支出（水戸市）は前年同月比26.4%減と、6か月連続で前年水準を下回った。内訳をみると、ウエイトの高い食料、住居、交通・通信のいずれも減少した。乗用車販売の落ち込みなども総合的に勘案し、個人消費は「弱含みにある」との判断を据え置いた。先行きの個人消費は、新型コロナ感染拡大の抑制が続き、マインドと支出両面で持ち直しに向かうことが期待される。ただし、資源価格上昇による光熱費等の負担増が家計を圧迫し、低所得層を中心に節約志向が強まる恐れがあることに留意する必要がある。



雇用情勢は持ち直しつつある

9月の雇用関連指標を季節調整値でみると、有効求人倍率は1.36倍、前月比0.04pt減と2か月連続で低下した。新規求人倍率は2.34倍、前月比0.41pt増と3か月振りに上昇した。就業地ベースでの有効求人倍率は1.46倍と前月比0.04pt減であった。

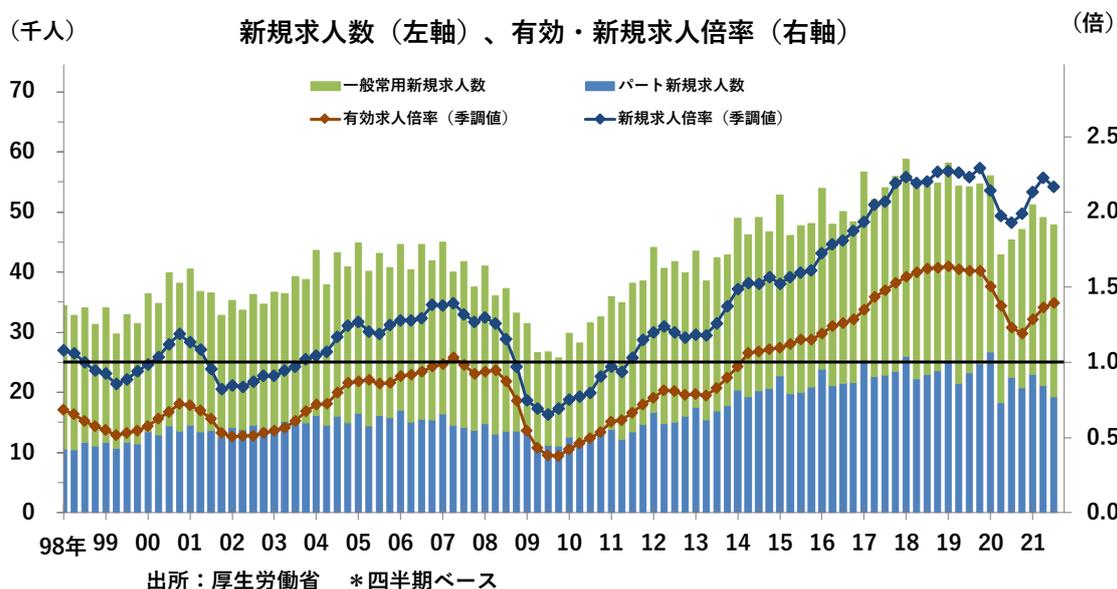
有効求人数について雇用形態別にみると、正社員は前年同月比10.9%増、パート・派遣・契約社員等は同4.9%増であった。

新規求人数は17,417人（前年同月比7.3%増）と、4か月連続で前年水準を上回った。一方、新規求職者数は7,653人（同6.1%減）と2か月振りに前年水準を下回った。

新規求人数（パートを除く）の内訳を産業別にみると、製造業（同32.6%増）や卸売業・小売業（同16.9%増）、医療・福祉（同13.3%増）等が前年水準を上回った一方、建設業（同12.2%減）、生活関連サービス業・娯楽業（同1.0%減）等が前年水準を下回った。また、3か月連続で減少していた宿泊業・飲食サービス業は横ばい（同0.0%）であった。

失業者を示す雇用保険受給者数は9,067人、前年同月比17.0%減と4か月連続で前年水準を下回った。有効求人倍率は8月、9月と低下が続いたものの均してみれば改善傾向は続いており、新規求人数の増加傾向、雇用保険受給者数の減少傾向などを勘案し、雇用情勢は「持ち直しつつある」との判断を据え置いた。

なお、当社が9月に県内企業226社に対し実施した「人手不足に関する調査」によると、21年9月時点で正社員が「不足」と回答した企業が42.9%に上り、不足理由のトップは「求人に対する応募が少ない」（55.2%）であった。また、茨城労働局によると、22年3月の新規高等学校卒業予定者の就職内定率は、9月末現在で66.3%と、前年に続き選考開始初月としては高い水準でのスタートとなった。これらの結果は、今後新型コロナの影響が徐々に和らぐにつれ、企業側から見た構造的な人材確保の問題が再び深刻化する可能性を示唆するものとみられる。



茨城県経済動向 基調判断の推移

		基調判断	
2018	4	県内経済は、持ち直しの動きが続いている	
	5	県内経済は、持ち直しの動きが続いている	
	6	県内経済は、持ち直しの動きが続いている	
	7	県内経済は、持ち直しの動きが続いている	
	8	県内経済は、持ち直しの動きが続いている	
	9	県内経済は、持ち直しの動きが続いている	
	10	県内経済は、持ち直しの動きが続いている	
	11	県内経済は、持ち直しの動きが続いている	
	12	県内経済は、持ち直しの動きが続いている	
	2019	1	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
		2	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
		3	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
4		県内経済は、持ち直しの動きが続いている	
5		県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
6		県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
7		県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
8		県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
9		県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
10		県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
11		県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている	
12		県内経済は、持ち直しの動きが一服し、弱含んでいる	
2020	1	県内経済は、持ち直しの動きが一服し、弱含んでいる	
	2	県内経済は、持ち直しの動きが一服し、弱含んでいる	
	3	県内経済は、弱含んでいる <small>—新型コロナウイルスの感染拡大により、先行き懸念・不透明感が続く見通し</small>	
	4	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により弱い動きとなっている <small>—先行きは更に悪化懸念</small>	
	5	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる <small>—製造業・非製造業とも7割の企業で悪影響を実感</small>	
	6	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる <small>—自営業総合判断DIがリーマンショック後に次ぐ低い値に</small>	
	7	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる <small>—先行きは感染の第2波の悪影響が懸念</small>	
	8	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる <small>—個人消費は底入れしつつあるものの、生産の落ち込みが続く</small>	
	9	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる <small>—方向感としては持ち直すも、生産などの低水準が続く</small>	
	10	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	11	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	12	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
2021	1	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	2	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	3	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	4	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	5	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	6	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	7	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	8	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	9	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	10	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
	11	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	

各指標の動向判断の推移

		生産	住宅	設備投資
2020	8	落ち込んでいる <small>一足元は低調ながら、先行きには底入れの兆し</small>	厳しい状況にある	弱い動きとなっている
	9	落ち込んでいる <small>一底入れしつつあるものの、感染拡大以前の水準には未達</small>	厳しい状況にある	弱い動きとなっている
	10	底入れしつつある <small>一最悪期は脱するも、回復のペースは緩やか</small>	厳しい状況にある	弱い動きとなっている
	11	底入れしつつある <small>一最悪期は脱するも、回復のペースは緩やか</small>	厳しい状況にある	弱い動きとなっている
	12	持ち直しつつある	厳しい状況にある	弱い動きとなっている
	2021	1	持ち直しつつある	厳しい状況にある
2		持ち直しつつある	厳しい状況にある	弱い動きとなっている
3		持ち直している	弱さがみられる	弱い動きとなっている
4		持ち直している	弱さがみられる	弱い動きとなっている
5		持ち直している	弱さがみられる	弱い動きとなっている
6		持ち直している	持ち直しつつある	弱い動きとなっている
7		持ち直している	持ち直しつつある	弱い動きとなっている
8		持ち直している	持ち直しつつある	弱い動きとなっている
9		持ち直している	持ち直しつつある	弱い動きとなっている
10		持ち直している	持ち直している	弱い動きとなっている
11		持ち直しの動きが一服している	持ち直している	弱い動きとなっている

		公共投資	個人消費	雇用
2020	8	底堅く推移している	底入れしつつある <small>一ただし、新型コロナウイルスの第2波による悪化が懸念</small>	弱い動きとなっている <small>一雇用保険受給者数が1万人超、今後も増加懸念</small>
	9	底堅く推移している	底入れしつつある <small>一先行きは小売についても不透明感強まる</small>	弱い動きとなっている
	10	増加基調にある	持ち直しつつある <small>一業種・業態や品目によっては弱い動きが継続</small>	弱い動きとなっている
	11	増加基調にある	持ち直しつつある <small>一駆け込み需要の反動減により前年比では減少傾向</small>	弱い動きとなっている
	12	増加基調にある	持ち直しつつある <small>一サービス関連業種では不透明感が続く</small>	弱い動きとなっている
	2021	1	底堅く推移している	弱含みにある <small>一小売は概ね好調も、サービス関連の業況が悪化</small>
2		底堅く推移している	弱含みにある <small>一サービス関連業種を中心に感染再拡大が悪影響</small>	弱い動きとなっている
3		底堅く推移している	弱含みにある	持ち直しつつある
4		底堅く推移している	弱含みにある	持ち直しつつある
5		足もとでは弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある
6		足もとでは弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある
7		足もとでは弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある
8		足もとでは弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある
9		足もとでは弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある
10		弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある
11		弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある

「茨城県経済動向」は旧常陽地域研究センター（常陽アーク）が
1969年より継続してまいりました月例調査を、
2019年4月以降、常陽産業研究所が継承・実施しているものです

表紙の通番は常陽アーク時の通番を引き継いでおります

常陽産業研究所
地域研究部
地域研究センター

- ・ 本資料は、当社が独自に集計・入手しているデータを除き、
2021年11月25日現在で公に利用可能な統計指標に基づき作成されています。
- ・ 公開されている統計指標は、過去に遡及して改訂されることがあります。
統計指標を利用する際は、常に最新の公表資料を参照する必要があります。
- ・ 本資料は、統計指標とそれに基づく判断が正確であるよう最善を尽くしておりますが、
その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・ 本資料に示した将来に関する全ての記述は、現時点での判断を示しているに過ぎません。